



スマイル上山の「6年生を送る会」!

6年生を送る会が、新リーダー5年生を中心とした全校取組によって、温かく心に残る時間となりました。5年生が見せてくれた、一人ひとりが自ら考え、自ら動く「自考・自走」の姿に感激しました。本番当日は子供たちを信じ、そばで見守る5年生担任の委ねる構えが、子供たちを育ててきたのだと分かります。

1年生から5年生まで、それぞれの学年が「ありがとう」の気持ちを込めて出し物を披露し、会場には笑顔があふれていました。6年生もまた、その思いに応えるように、自分たちで構想した劇を堂々と演じ、在校生に頼もしさと優しさを示してくれました。

この会の様子を見ながら、私はドン・キホーテ創業者である安田隆夫さんの造語として知られる「集団運」という言葉を思い出しました。個々の力だけではなく、仲間とともに動くことで生まれる「良い流れ」が集団を成長させるという考え方です。今回の会には、まさにその「集団運」が満ちていました。本校が目指す「スマイル上山」は、関わる誰もが幸せになる学校です。その実現には、次の3つが欠かせません。

①好奇心を育む「～たいの心」

・誰かのためにやってみたい、喜ばせたいという気持ちが、子供たちの行動を前向きにしました。

②達成感につながる「思わずこぼれる笑顔」

・やりきった経験が自信となり、次の挑戦への力になりました。

③貢献・感謝の「お互い様からお陰様へ」

・助け合いの中で、「自分も誰かの役に立てる」という実感が育ちました。

6年生を送る会では、この3つが見事に形となって表れていました。ここでの最大の収穫は、「主語の転換」です。「自分がどうしたいか」から「仲間のために何が出来るか」へ主語が変わることで、学校全体に貢献と感謝が広がったように思います。

こうした一つ一つの行事が積み重なり、学校全体に良い流れが生まれ伝統となります。6年生が築いてきた流れを、5年生がしっかりと受け継ぎ、さらに高めてくれるでしょう。これからも、子供たちの「～たいの心」を大切にしながら、笑顔と感謝が循環する学校づくりを進めてまいります。



1年生のプレゼント!



2年生の出し物の様子



3年生の出し物の様子



4年生の出し物の様子



5年生の出し物の様子



6年生の出し物の様子